

令和元年9月11日

## 兵庫県版の連載記事取り消しとおわび

株式会社産業経済新聞社 広報部

産経新聞社は、朝刊地域面（兵庫県版）で令和元年8月18日から20日に3回にわたり連載した記事「無人島生活 中学生のサバイバルキャンプ」について、神戸新聞社が平成30年8月31日から9月3日に4回にわたり連載した記事と、全般の構成が類似し、複数の表現が酷似していることから、著作権を侵害した可能性が高いと判断し、9月10日、神戸新聞社におわびするとともに、記事を取り消しました。読者の皆さまにおわびします。調査を進め、関係者の処分を検討します。

記事は、姫路支局の男性記者（46）が、兵庫県姫路市の無人島で元年8月10日から13日に行われた中学生の「サバイバルキャンプ」に同行取材し、執筆しましたが、8月21日に神戸新聞社から、同紙姫路版で平成30年に連載された記事「新人記者が挑む 無人島サバイバル」と酷似した表現が、本文中や写真説明などに多数あると指摘がありました。両記事は、いずれも「兵庫県立いえしま自然体験センター」が主催した中学生キャンプを題材としていました。

弊社が調査した結果、記事での個々の表現・描写は、参加した中学生やキャンプのスタッフ、関係者の実際の発言を引用するなどしたものであると確認しました。しかし、記者は事前に神戸新聞の連載記事に接しており、表現が引きずられた可能性が否めないこと、記事全般の構成が類似しており、複数の酷似した表現があることを総合的に勘案し、神戸新聞記事の著作権を侵害した可能性が高いと判断しました。

<安東義隆・産経新聞大阪本社編集局長のコメント>

記事は実際に現地で参加者、主催者側を取材し、書いたものです。しかし、神戸新聞の記事に依拠した疑いがぬぐえないと判断しました。神戸新聞社ならびにキャンプ関係者の方々、読者の皆さまに心よりおわび申し上げますとともに、今後、記者教育を徹底し、再発防止に努めます。